

ドブネズミの駆除方法とその効果

望月正己・稲葉明子

(富山県農業試験場)

最近、野ソ及び家ネズミの単独駆除の徹底とともに、この駆除の目をくぐりドブネズミによる被害が県下各地に目立つて発生するようになってきた。このドブネズミに対処するには従来の方法を総合的に行うことが大切であると考えられる。そこで、この考えを立証するために、県下唯一のドブネズミ異常発生地である高岡市佐野(39町22戸)に於て、昭和28年11月20日より12月末までに亘つて試験を試みた。まず放飼標式ネズミを放飼して、後に、野外駆除として、モノフロル醋酸ソーダ入の毒餌を使用し、同時に、屋内に於ては人畜に無害なクマリン系毒剤を使用し、後から発見できた死ネズミを採集し、さらに、その死体を解剖して死因に対する所見を区分した。

このような異常発生に於ては、棲息個体数の算出は最も簡単な比例式によつて求めることができるもの

で、この比例式によると、駆除前の棲息頭数は2,759頭(1戸当り野外を含めて145頭に当る)であり、年間を通じてこれ以上増減しないとすると、この被害では、1頭当り1日に20g 食べるとして、玄米換算で計算しても、この部落全体で1年間に57.42石、金にして459,360円 の莫大な損失をあたえていたことになる。ところで、前記の総合駆除を行うことによる効果をみると、推定死ネズミ数が2,499.7頭として90.6%の駆除率で、そのうち31.1%は1回の野外駆除効果であつて、他の68.9%は2週間にわたる屋内駆除による成果である。部落全体の推定駆除効果は、玄米換算として年間51.92石、金額で461,174円となり、この成果をあげるに要する薬剤費はわずかに8,300円であるから、いかに効果の大きいかわかる。

新考案の野ネズミ捕獲器について

望月正己

(富山県農業試験場)

従来のネズミとり器は、野ネズミに対しては使うことができないほど能率がわるく、実験材料をとるためにも、また、野外の習性を研究するためにも大きな支障となつてきた。そこで、いままでのネズミ捕獲器の欠陥を研究した結果、その入口の部分その他に改良を加え、小型の野ネズミ用のものを考案することができ

た。この考案器は捕獲率が非常に高く、その上捕獲したネズミの脱出逃亡の心配はない。この器具を使用して以来、野ネズミの研究を一段と促進することができた。

(詳細は昭和29年度、野ソの野外応用研究(1)を参照されたい)

集団防除についての二、三の考察

宮森久男・奥宇一・赤池弘義

(石川県河北農業改良普及事務所)

昭和30年に河北郡森本町の3部落でニカメイチュウとクロカメムシの集団防除を行った。防除した部落の中、梅田部落は1化期は6月9日にBHC粉剤反当

2.92kg、2化期は8月4日にホリドール粉剤反当3.39kg、クロカメには7月9日にホリドール反当3.1kgを共同撒布した。観法寺部落はホリドール粉剤を6月14